

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	その他のサービス [ レンタカー ] ( 営業担当 )	来客数の動き	・年末年始の沖縄県の入域観光客数が順調に推移した結果、レンタカーの利用も順調に伸びている。
	やや良くなっている	その他飲食 [ 居酒屋 ] ( 経営者 )	来客数の動き	・1月は例年15日以降は来客数が急減するが、今年は例年の120%で好調に推移している。
		観光型ホテル ( 商品企画担当 )	来客数の動き	・客室稼働率は1月で前年が59%、今年は76%の見込みである。団体客は前年比118%、個人客は128%で推移している。個人客の好調さは10月から続いている。
		ゴルフ場 ( 経営者 )	単価の動き	・客の入込は前年並みだが、客単価の増加がみられる。
	変わらない	百貨店 ( 担当者 )	販売量の動き	・成人式以降、例年よりも4度ほど高く気温が推移したことから、主力衣料が急速に鈍化した。ただし、食品、住居は引き続き好調さを維持しており、客の消費意欲は高い。
		コンビニ ( エリア担当 )	単価の動き	・単価下落の要因の1つに低価格路線がある。例えば発泡酒に続く第3のビールのように、買いやすくなったからといって今までビールを1本購入していた人が2本購入することはほとんど無い。販売数は変わらなくても単価が下がるのでトータルの売上は低迷する。飲料類はこの様な現象がこの1年特に顕著である。
		衣料品専門店 ( 経営者 )	販売量の動き	・3か月前と比べて回遊客は減少する気配はあるが、売上は前年と大して変わらない。
		家電量販店 ( 従業員 )	客の様子	・売上額や来店客数からすると景気は一見下向きだが、買物の内容は高級志向であり、かなり良い。
		その他専門店 [ 楽器 ] ( 経営者 )	販売量の動き	・年末年始の需要も一段落している。部署による違いはあるが、全体の売上でみると前年の数字の維持が精一杯である。観光客は順調だがリピーターと外国人の増加をいかに売上に反映させるかが課題である。
		観光名所 ( 職員 )	来客数の動き	・施設利用者数は、3か月前の10月は前年同月比で108.1%、今月は1月24日現在で106.4%とほぼ同率となっている。県外からの入域客数も好調である。来園者は、前半は家族旅行、カップル、後半は一般団体、修学旅行等が中心となっている。
やや悪くなっている	一般小売店 [ 靴・袋物 ] ( 経営者 )	来客数の動き	・ショッピングセンターの店、商店街の店、ともに年初めはまずまずで去年よりは良かったが、中旬以降は去年よりも厳しい状況である。	
	コンビニ ( 経営者 )	販売量の動き	・売上が前年を下回っている。年末年始で使った分、節約しているように見受けられる。	
悪くなっている	一般小売店 [ 衣料品・雑貨 ] ( 経営者 )	来客数の動き	・正月休み明け以降急激に来客数が減少し、客単価も上がらないため、売上は前年同月比約90%と減少している。年間を通して1月、2月は観光客減少により毎年売上高の低い月になるため、対策として地元向け販売戦略を計画中である。	
企業 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	-	-	-
	変わらない	通信業 ( 営業担当 )	受注量や販売量の動き	・大口ユーザの利用サービス変更に伴う動きはあるものの、受注量や販売量の純増にはつながらない。
		不動産業 ( 支店長 )	受注量や販売量の動き	・問い合わせや、成約件数、売上が横ばい状態である。
	やや悪くなっている	建設業 ( 経営者 )	それ以外	・受注量に地域間のばらつきがある。良い所と悪い所があり、総合するとやや悪い。
悪くなっている	-	-	-	
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	学校 [ 大学 ] ( 就職担当 )	採用者数の動き	・去年度と比較して、1月に入ってからの県内の追加採用が増えている。また、県内外共に大学新卒は色々な業種での採用増が見込まれる。

変わらない	求人情報誌製作会社（営業担当）	求人数の動き	・求人数が横ばい状態で、いろいろな業界で淘汰を感じる。拡大路線、新規参入もあるものの、その一方で撤退、業務縮小もある。両方の点が相殺され、あまり変わらない。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・9月と比較すると、新規求人数は23.6%減の2,813人である。一般求人は21.5%減で2,323人（構成比82.6%）である。パート求人は32.5%減の490人（構成比17.4%）である。12月の新規求人は飲食・宿泊、医療・福祉、教育・学習支援、サービスで増加し、建設、製造、情報通信、運輸、卸売・小売、金融・保険、不動産では大幅に減少している。有効求人倍率は0.02ポイント上昇し0.52倍である。就職件数は16.9%減少の1,031人である。タクシー乗務員の求人は常時更新がみられ、人手不足感・業界の賃金形態等を含めた雇用条件の厳しさがうかがえる。
やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-